第12章　現金預金②

12－1　当座借越

【重要性：A】

【一勘定制の重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　当座借越の仕組みを理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目（二勘定制）

「当座預金」勘定（資産）

「当座借越」勘定（負債）

通常は当座預金の残高を超える金額の小切手を振り出すことはできません。しかし、銀行と当座借越契約（とうざかりこしけいやく）を結んでおけば、決められた借越限度額（かりこしげんどがく）まで当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことができます。この当座預金の残高を超えて小切手を振り出すことを**当座借越**（とうざかりこし）といいます。当座借越は銀行からの一時的な借入を意味します。

当座借越の処理方法には**二勘定制**（にかんじょうせい）と**一勘定制**（いちかんじょうせい）がありますが、全商簿記３級では主に、二勘定制が出題されていますので、一勘定制は参考として下さい。

（1）二勘定制

二勘定制とは、資産としての当座預金は「**当座預金**」勘定（**資産**）で、負債としての当座借越は「**当座借越**」勘定（**負債**）を用いて処理します。

なお、１つの銀行に対する当座預金口座については、「当座預金」勘定（資産）の残高がある場合は「当座借越」勘定（負債）はゼロ、「当座借越」勘定（負債）の残高がある場合は「当座預金」勘定（資産）はゼロとなります。つまり、どちらか一方にしか残高は生じません。

① 当座借越が生じた場合

例題12－１　商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金残高は800円であり、当座借越契約における借越限度額は5,000円である。また、当座借越について当座借越勘定を用いて処理している。

振り出した小切手1,000円のうち、800円は「当座預金」勘定（資産）の減少として処理し、当座預金残高を超える200円は実質的には銀行からの借入金なので「当座借越」勘定（負債）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**1,000**	**当　座　預　金**	**800**
		当　座　借　越	**200**

この結果、「当座預金」勘定（資産）の残高はゼロとなり、「当座借越」勘定（負債）に残高が生じます。

当座預金	
800	**800**

当座借越	
残高　200	**200**

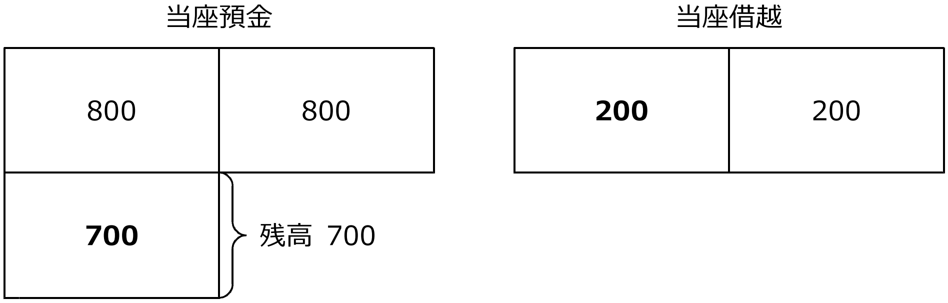
②　当座借越が生じた後に当座預金に入金があった場合

例題12－２　**例題12－１ の後に 現金900円を当座に預け入れた。**

当座借越が生じた後に当座預金に入金した場合、まずは負債としての当座借越の返済に充てられ、残りが資産としての当座預金の増加となります。したがって、「当座借越」勘定（負債）の減少と「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　借　越	**200**	**現　　　　金**	**900**
当　座　預　金	**700**		

この結果、「当座借越」勘定（負債）の残高はゼロとなり、「当座預金」勘定（資産）に残高が生じます。



（2）一勘定制（参考）

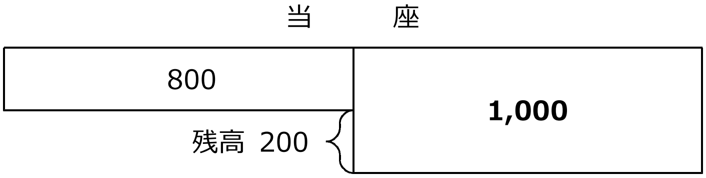
一勘定制とは、資産としての当座預金も、負債としての当座借越も「**当座**」勘定（または、「当座預金」勘定）という１つの勘定で処理します。したがって、「当座」勘定が借方残高なら**資産**としての**当座預金**を意味し、当座勘定が貸方残高なら**負債**としての**当座借越**を意味します。

① 当座借越が生じた場合

例題12－３ **商品1,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座勘定の残高は800円であり、当座借越契約における借越限度額は5,000円である。また、当座預金及び当座借越について当座勘定を用いて処理している。(例題12－１ と同じ数値です）**

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**1,000**	**当座**	**1,000**

この結果、当座勘定は貸方残高200円となり、負債としての当座借越を意味します。

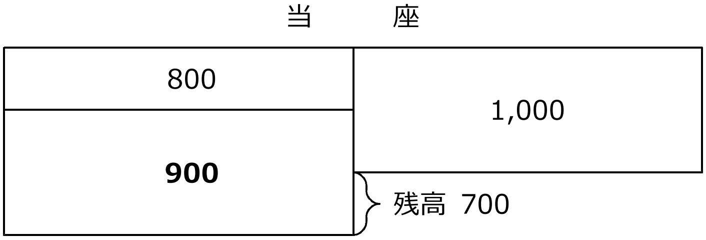


② 当座借越が生じた後に当座預金に入金があった場合

例題12－４ **例題12－３ の後に 現金900円を当座に預け入れた。**

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座	**900**	**現金**	**900**

この結果、当座勘定は借方残高700円となり、資産としての当座預金を意味します。



12－２　現金過不足

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　現金過不足の内容を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

③　帳簿残高を実際有高に合わせることに注意しよう！

主な勘定科目

「現金過不足」勘定

「現金」勘定（資産）

「雑益」勘定（収益）

「雑損」勘定（費用）

現金の帳簿残高（現金勘定の残高）と実際有高（実際の現金の金額）が一致しないことがあります。この帳簿残高と実際有高の差額を**現金過不足**といいます。

現金過不足が生じた場合、実態に合わせるため、帳簿残高を実際有高と一致させる必要がありますが、不一致原因がわからないため、一時的に「**現金過不足**」勘定で処理します。

不一致原因が判明した場合には、「現金過不足」勘定から適切な勘定へ振り替えます。

（１）期中に現金過不足が判明したとき

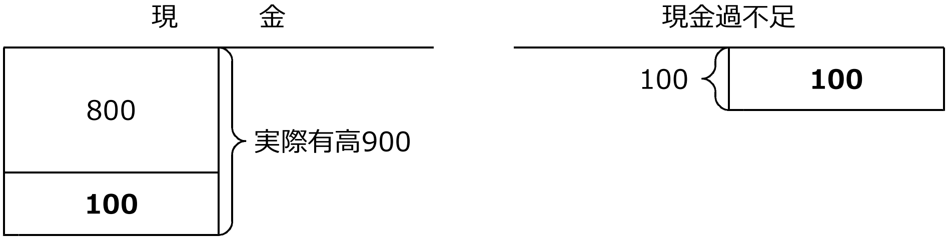
① 帳簿残高 ＜ 実際有高

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を増加させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の貸方に記入します。

例題12－５　現金残高が800円であったところ、実際有高は900円であった。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現　　　金	**100**	**現 金 過 不 足**	**100**

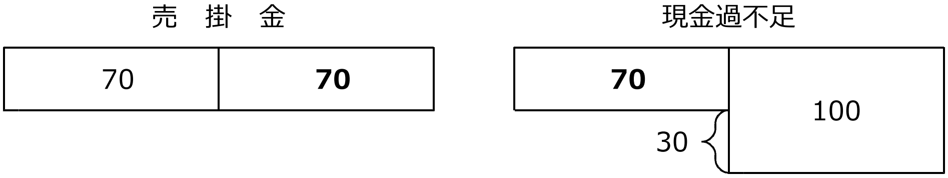
この結果、現金勘定の残高は900円となり、実際有高と一致します。



例題12－６　現金過剰額100円のうち、70円は売掛金の回収であったことが判明した。

「現金過不足」勘定から「売掛金」勘定（資産）に振り替えます。

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
現 金 過 不 足	**70**	**売　掛　金**	**70**



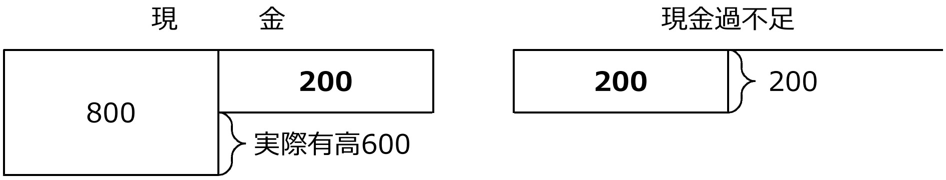
② 帳簿残高 ＞ 実際有高

帳簿残高を実際有高に合わせるため「現金」勘定（資産）を減少させます。また、相手勘定科目として「現金過不足」勘定の借方に記入します。

例題12－7　現金残高が800円であったところ、実際有高は600円であった。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	**200**	**現金**	**200**

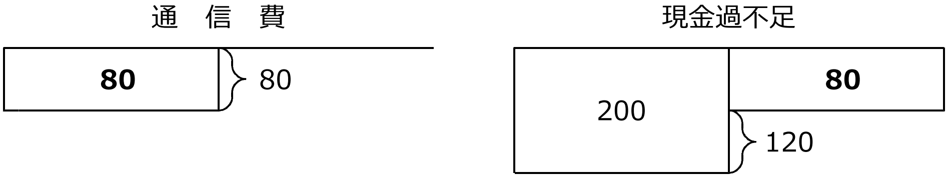
この結果、現金勘定の残高は600円となり、実際有高と一致します。



例題12－8　現金不足額200円のうち、80円は切手代で使用していたことが判明した。

「現金過不足」勘定から「通信費」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**80**	**現金過不足**	**80**



（２）原因が判明しなかったとき

現金過不足の不一致原因が判明しなかった時は、「現金過不足」勘定が貸方残高（現金過剰）の場合、「**雑益**（ざつえき）」勘定（**収益**）に振り替えます。また、「現金過不足」勘定が借方残高（現金不足）の場合、「**雑損**（ざつそん）」勘定（**費用**）に振り替えます。

この処理は通常、決算整理で行います。したがって、「現金過不足」勘定は他の勘定に振り替えられますので、決算整理後には「現金過不足」勘定の残高はゼロとなります。

例題12－９　決算において、現金過剰額100円の原因が判明しなかった。

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現　金　100 / 現金過不足　100

「現金過不足」勘定から「雑益」勘定（収益）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金過不足	**100**	**雑益**	**100**

雑益	
100	**100**

現金過不足	
100	100

例題12－10　決算において、現金不足額200円の原因が判明しなかった。

現金過不足の判明時に以下の仕訳を行っています。

現金過不足　200 / 現　金　200

「現金過不足」勘定から「雑損」勘定（費用）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
雑損	**200**	**現金過不足**	**200**

雑損	
200	200

現金過不足	
200	**200**

第12章　現金預金②　問題

問題12-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　現金帳簿残高40,000円と実際有高37,000円の差額は原因不明であった。

②　決算において、①の現金過不足のうち、2,000円は交通費として使用した分であることが判明したが、残額は不明であった。

③　決算において、現金の過剰額として現金過不足勘定で処理してある4,500円のうち、3,700円は売掛金の回収であることが判明したが、残額は不明であった。

問題12-2　以下の取引に関して、二勘定制における当座預金勘定および当座借越勘定への転記を行いなさい。なお、決算日は12月31日である。

1月1日　当座預金勘定の期首残高は27,000円であった。また、当店は銀行と当座借越契約を締結しており、借越限度額は50,000円である。

3月3日　仕入先から商品30,000円を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

5月5日　得意先から掛代金15,000円が当座預金に振り込まれた。

第12章　現金預金②　答案用紙

問題12-1

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①				
②				
③				

問題12-2

当座預金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	前期繰越	27,000				

当座借越

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方

第12章　現金預金②　解答解説

問題12-1　解答

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	現金過不足	3,000	現金	3,000
②	交通費	2,000	現金過不足	3,000
	雑損	1,000		
③	現金過不足	4,500	売掛金	3,700
			雑益	800

問題12-1　解説

①　原因不明の現金は「現金過不足」勘定で処理します。また、帳簿残高を実際有高に合わせるために、「現金」勘定（資産）を3,000減少させます。

②③　現金過不足の原因が判明した場合、適切な勘定に振り替えます。また、原因が決算において不明な場合、「雑損」勘定（費用）または「雑益」勘定（収益）で処理します。

問題12-2 **解答**

当 座 預 金

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
1	1	前期繰越	27,000	3	3	仕　入	27,000
5	5	売掛金	12,000				

当 座 借 越

日付		摘　要	借　方	日付		摘　要	貸　方
5	5	売掛金	3,000	3	3	仕　入	3,000

問題12-2 **解説**

二勘定制における仕訳は以下となります。当座預金残高を上回る小切手を振り出した場合には、「当座借越」勘定（負債）で処理します。また、当座借越が生じている状態で当座預金に入金があった場合、まずは負債としての当座借越の返済として「当座借越」勘定（負債）の減少として処理し、残額は資産としての「当座預金」勘定（資産）の増加として処理します。

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
3/3	**仕　入**	**30,000**	**当座預金**	**27,000**
			当座借越	**3,000**
5/5	**当座借越**	**3,000**	**売掛金**	**15,000**
	当座預金	**12,000**		